



月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimmu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

広島大学大学院理学研究科物理科学専攻教員

1. 助教授又は助手 1 名
2. 宇宙・素粒子科学講座
3. 宇宙物理学理論
5. (1) 採用決定後のなるべく早い時期
(2) 助手の場合は 7 年、再任 5 年
助教授の場合は無
6. 博士号取得者
7. (1) 履歴書、(2) 業績リスト、(3) 研究概要、(4) 主要論文別刷 5 編以内、(5) 研究計画と教育に対する抱負、(6) 照会可能者 2 名の氏名と連絡先、(7) 応募する職種と着任可能時期
8. 2005 年 5 月 31 日
9. (1) 〒739-8526 東広島市鏡山 1-3-1
広島大学大学院理学研究科物理科学専攻長
圓山 裕
(2) 広島大学大学院理学研究科物理科学専攻
小島康史
Tel: 082-424-7365
e-mail: kojima@theo.phys.sci.hiroshima-u.ac.jp
10. 封筒に「宇宙物理学人事応募書類在中」と朱書き、簡易書留で送付のこと。

宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部 高エネルギー天文学研究系教育職

1. 教授 1 名
2. (1) 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部高エネルギー天文学研究系
(2) 相模原市
3. 高エネルギー天文学、高エネルギー宇宙物理学
4. 高エネルギー天文学研究系では、飛行体を用いた高エネルギー天文学・宇宙物理学の観測的研究、及び、それに関連する新しい観測装置の研究開発を行っています。今回募集する高エネルギー天文学研究系・教授には、高エネルギー天文学・宇宙物理学の観測的研究と観測機器開発に指導的な役割を果たすとともに、X 線天文衛星の運用、将来ミッションの計画推進にも中心的な役割を果たすことを期待しています。また、大学共同利用の機能を有する当研究本部の役割を理解し、内外の研究者等と協調して研究を遂行するとともに、大学院学生の教育・指導にも十分な能力のある方を希望します。
5. 決定後できるだけ早い時期
6. 博士の学位を有する者
7. (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 論文リストと主要論文の別刷、(4) これまでの研究概要と今後の研究計画、(5) 他薦の場合は推薦書 2 通、自薦の場合は本人について意見を述べることのできる方 2 名の氏名と連絡先（住所、電話番号、電子メールアドレス）。
8. 平成 17 年 8 月 1 日（月）必着
9. (1) 〒229-8510 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部庶務課人事係
Tel: 042-759-8010
(2) 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部高エネルギー天文学研究系 研究主幹 満田和久
Tel: 042-759-8132
e-mail: mitsuda@astro.isas.jaxa.jp
10. 封筒の表に「高エネルギー天文学研究系教授応募書類在中」と朱書きして、書留便にて郵送して下さい。応募書類は返却いたしませんので、あらかじめ

ご了承下さい。また、選考に伴い発生する交通費・宿泊費については自己負担となります。

(尚、ホームページにも開催申請書が掲載されております。)

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

京都産業大学理学部物理科学科教員（講師）

1. 2005年1月（98巻1号）
2. 河北秀世（ぐんま天文台主任研究員）
3. 2005年4月1日

研究助成

2006年度（平成18年度）開催藤原セミナーの募集について

趣意

藤原科学財団は、科学技術の振興に寄与することを目的として、「藤原セミナー」の開催を希望する研究者から、申請を受け、選考の結果採択を決定したものについて、セミナー開催に必要な経費を援助いたします。

1. 対象分野：自然科学の全分野
2. 応募資格：わが国の大学など学術研究機関に所属する常勤の研究者
3. 開催件数：1件
4. 開催費用援助額：12,000千円以内
5. セミナー対象期間：2006年1月1日～2006年12月31日
6. 申請受付期間：2005年（平成17年）4月1日（金）～同年7月31日（日）（必着）
7. 申請方法：「セミナー開催申請書」（1通）を所属機関長を経由して当財団に提出すること。尚、著名な参加予定者については、セミナーのテーマに関する主要論文（5名以内）1人につき1編、コピーで可）を添付のこと。
8. 申請書提出先・連絡先
〒104-0061 東京都中央区銀座3-7-12
財団法人藤原科学財団
Tel: 03-3561-7736 Fax: 03-3561-7860
藤原科学財団ホームページ：<http://www.fujizai.or.jp>

研究会・集案案内

名古屋大学太陽地球環境研究所第14回一般公開・講演会

後援：豊川市、豊川市教育委員会
日時：平成17年6月4日（土）午前10時～午後4時（入場は3時30分まで）
場所：名古屋大学太陽地球環境研究所（豊川市穂ノ原3-13）

施設公開・展示：

地球の大気/宇宙と地球の光・電波/宇宙を吹く風が電波をゆらす/宇宙を知る窓：オーロラ/惑星の環境とシミュレーション

講演会（午後1時30分～午後3時）：

「太陽から飛んでくる高エネルギー粒子」 松原 豊
「電波で調べる宇宙の天気」 西谷 望

問い合わせ先：

名古屋大学太陽地球環境研究所
第14回一般公開・講演会実行委員会
幹事（関）もしくは庶務掛
Tel: 0533-86-3154 Fax: 0533-86-0811
詳しくは下記のURLをご覧ください。
<http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/>

第24回レーザーセンシングシンポジウム

1972年の第1回レーザーダシニングシンポジウム以来、継続して開催が続けられてきました。第12回以降広くレーザーを利用したセンシングの研究発表を行う場としてレーザーセンシングシンポジウムと名称を変更して開催されてきました。来年2006年には第23回のレーザーダシニング国際会議（International Laser Radar Conference: ILRC）が奈良市で開催されることもあり、本シンポジウムにも多数の参加者が見込まれます。

日時：2005年9月21日（水）・22日（木）
会場：鴨川温泉 鴨川グランドホテル（千葉県鴨川市広場820）

主催：レーザーダシニング研究会（第24回実行委員長：千葉大学環境リモートセンシング研究センター 竹内延夫）

参加費：一般12,000円 学生2,000円

参加費には講演予稿集代金が含まれています。シン

ポジウムに参加されない同伴者の宿泊受付もして
います(参加費不要)。

宿泊費 9,000 円。懇親会費 3,000 円。

申込方法: ホームページ (<http://berno.tp.chiba-u.jp/lss24/>) をご参照下さい。

発表申込受付期間: 4月25日～7月22日

参加申込受付期間: 4月25日～8月15日

原稿提出受付期間: 7月22日～8月15日

プログラム: 特別講演(9月21日)

「小型衛星による鯨生態観測」

林 友直(千葉工業大学附属総合研究所教授)

対象分野:

- レーザー技術(固体レーザー, 波長変換, 量子カスケードレーザー, 他)
- 光学技術(光学システム, 検出器, 他)
- レーザー分光
- 大気光学
- レーザー計測(工業計測, 環境計測, 生体計測, 他)
- ライダー技術/ライダー観測(大気, 海洋, 植生, 他)
- 宇宙利用システム(衛星搭載ライダー, 衛星レーザー測距, 他)
- その他, レーザー利用センシング技術およびその応用

発表形態(予定):

口頭発表 発表時間 13分 質疑応答 2分

ポスター発表 発表時間 105分 ポスターサイズ横
72cm×縦 101cm

問合せ先:

千葉大学工学部 椎名達雄

環境リモートセンシング研究センター 久世宏明

Tel/Fax: 043-290-3470(椎名)

e-mail: lss24@ceres.cr.chiba-u.ac.jp

平成基礎科学財団・国立天文台「科学しよう」 第一回—すばる望遠鏡で科学しよう—

平成基礎科学財団と自然科学研究機構国立天文台は、科学の探究を志す若者たちを支援します。「科学しよう」は高校生を最先端科学の研究施設に招き、その研究に直接参加させることにより、また現地に行かれない中学・高校生には、現地の高校生と意見交換できるよう現場をライブで結ぶ討論会を開催することにより、実際に自分自身で科学する喜びを中学・高校生に与える目的で実施します。

第一回は、世界最大級の光学赤外線望遠鏡「すばる」

で「科学しよう」を開催します。全国の高校生のみならず、すばる望遠鏡を操作して宇宙の未知なる謎に挑戦しませんか?そして、この挑戦の様子は科学技術館(東京北の丸公園)にて中学生・高校生対象にインターネット中継し、討論会を開催しますので、たくさんの意欲ある中学生・高校生の参加をお待ちしております。

記

主 催: (財)平成基礎科学財団, 自然科学研究機構国立天文台

共 催: (財)日本科学技術振興財団

後 援: 世界物理年日本委員会, 日本天文学会, 日本物理学会, 国立教育政策研究所, 日本科学技術振興機構

企画 I. すばる望遠鏡での高校生の観測体験

募集数: 引率教員をふくめ16歳以上の高校生のグループ10名以内

(例: (1) 引率教員2名および高校生8名以内の高校1校

(2) 引率教員1名および高校生4名以内の高校2校等引率教員を含むこと)

方 法:

(1) 書類選考 5月27日(金)必着 学校毎の申し込み

(2) 面接選考 6月10日(金)3~4校程度 三鷹にて実施(事前レクチャー兼ねる)

(3) ハワイ訪問 8月7日(日)~12(金) 4泊6日(予定)

すばる望遠鏡訪問の応募要領: 詳細は「応募要項」を参照ください。

応募要項(国立天文台のウェブ・ページ([URL: http://www.nao.ac.jp/event/kagaku/](http://www.nao.ac.jp/event/kagaku/))からダウンロードできます)の申請書(「訪問希望者名簿」, 「すばる望遠鏡での観測提案書(必ず生徒自身が記載すること)」, 「指導者から見た応募生徒の特徴(引率教員が記載)」)を以下の申し込み先まで、郵送、Fax、e-mail 添付のいずれかの方法でお送りください。

応募申込先: 〒181-8588 三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台広報普及室「第一回すばる望遠鏡で科学しよう」事務局宛

e-mail: office-science@pub.mtk.nao.ac.jp

企画 II. 公開講演会

「科学しよう」第一回—すばる望遠鏡で科学しよう—

日 時: 日本時間 2005年8月11日(木)午後2時00分~4時30分(予定)(ハワイ時間 2005年8月10日(水)午後7時~9時30分)

会場：科学技術館地下1階「サイエンスホール」

プログラム（案）：

主催者あいさつ

小柴昌俊（平成基礎科学財団理事長・東京大学特別
栄誉教授）

講演 海部宣男（国立天文台長・平成基礎科学財団
理事）

「すばる望遠鏡が解き明かす宇宙の謎」

講演 唐牛 宏（ハワイ観測所長）

「すばる望遠鏡の仕組み—マウナケア山頂からの
実況報告—」

（すばる望遠鏡制御室よりテレビ中継）

高校生による山頂での観測実習の様子紹介および会
場との質疑応答ほか

公開講演会の参加応募要領：

1. 応募資格：中学生・高校生
2. 応募申込方法：官製「往復はがき」または「e-mail」に、次の事項を記入してください。

(1) 氏名, (2) 現住所, (3) 学校名, (4) 学年, (5)
「科学しよう」講演会参加希望と明記

注) *「返信はがき」には、必ず本人の氏名、現住所
を記入のこと。

*「往復はがき」「e-mail」は1件につき応募者1
名（または1家族（保護者）：この場合全員の
氏名をお書きください）。

3. 応募申込締切日：7月12日（火）消印有効
4. 定員：400名（先着順にて定員になり次第締め
切ります）
5. 入場：無料（参加を認められた「返信はがき」
または「返信メール」が入場券となります）
6. 先生の応募：中学生・高校生の定員に余裕があ
る場合、教員も参加できます。
（応募申込締切日は同様、(1) 氏名, (2) 現住所,
(3) 学校名, (4) 担当教科名を記入）
7. 応募申込先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-
21-1

国立天文台広報普及室「第一回すばる望遠鏡で科
学しよう」事務局宛

e-mail: office-science@pub.mtk.nao.ac.jp

問い合わせ先：平成17年度のみ企画I, 企画IIともに
〒181-8588 三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台広報普及室

Tel: 0422-34-3929（縣 秀彦）

e-mail: office-science@pub.mtk.nao.ac.jp

「君が天文学者になる4日間」参加者募集

今年も高校生または相当する年齢の方を対象に、
「君が天文学者になる4日間」の体験学習生を募集し
ています。天文・宇宙に関心を抱く高校生の皆さん、
国立天文台三鷹キャンパスで4日間の研究活動を体験
しませんか。関心のある方は、下記の要領にてご応募
ください。あなたも天文学の研究をしてみませんか?!
実施日時：2005年8月8日（月）10時～8月11日
（木）12時（3泊4日）

場 所：国立天文台三鷹キャンパス（三鷹市大沢 2-
21-1）

国立天文台ホームページ <http://www.nao.ac.jp/>

対 象：高校生または相当年齢の方 16名

参加費：1万円程度（4日間の宿泊費、朝食・夕食代、
傷害保険料含む）

このほか、各自、会場までの交通費、昼食・夜食代
などが必要です。

応募方法：「私が知りたい宇宙の謎」という題で、自分
がやってみみたい天文学の研究、天体観測など、800
字（400字詰め原稿用紙2枚）程度の作文を6月7
日（火）必着で国立天文台宛にお送りください。

作文には、住所、氏名、生年月日、性別、電話番号、
学校名、学年を明記してください。

選考の結果は6月24日（金）までに各人宛に通知い
たします。

宛 先：〒181-8588 三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台広報普及室 室君天係

封筒の表紙に「君が天文学者になる4日間応募書類
在中」と朱書きしてください。

内 容：2005年8月8日 開校式、講義、研究テ
マ決め、観測実習など

8月9日 データ解析、観測実習など

8月10日 データ解析、研究発表会など

8月11日 講評、施設見学、閉校式など

参加者4人でチームを組み、冷却 CCD カメラと口
径50センチ望遠鏡を使用する観測をはじめ、研究
テーマを決めることから、データ解析、研究発表ま
ですべて参加者自身に体験していただく天文学の実
習です。若い研究者たちと一緒に観測、データ解析、
討論等を行うことで、研究者の日常や研究の進め方
を体験し、研究最前線の雰囲気を味わえることが特
徴です。

※お問い合わせは、広報普及室 室井宛にお願いいた
します。

Tel: 0422-34-3644

email: kyoko.muroi@nao.ac.jp

この活動は、子どもゆめ基金（独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター）助成活動によるものです。

主催：国立天文台「君が天文学者になる4日間」実行委員会

The Third 21COE Symposium: Astrophysics as Interdisciplinary Science

早稲田大学では、以下のような国際シンポジウムを開催しますので、奮ってご参加下さい。

主催・共催：早稲田大学 21 世紀 COE プログラム「多元要素からなる自己組織系の物理」早稲田大学国際会議等開催助成プログラム

開催日時：2005 年 9 月 1 日（木）～3 日（土）

開催場所：早稲田大学大久保キャンパス 57 号館

〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1 • Tel: 03-3203-2720

内容：本シンポジウムでは、宇宙の大規模構造の形成機構や高密度特異天体の起源とその性質、さらには宇宙を満たしているダークマターやダークエネルギーの正体にいたる宇宙物理学の重要な諸テーマに対し、従来の素粒子・原子核理論に加え、統計物理学、物性理論・実験などより広い分野からの知見をもちより議論をすることにより、これまでとは質的に違った現象に対する理解を深めることを目的としています。

定員：約 200 名

参加費：無料

参加申込締切 8 月 31 日

講演申込締切 6 月 30 日

連絡先：〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1

早稲田大学理工学術院物理学科 山田章一

Tel/Fax: 03-3203-2720

email: coe_astro@gravity.phys.waseda.ac.jp

webpage: <http://www.gravity.phys.waseda.ac.jp/coe-astro/>

干渉計サマースクール 2005 開催のご案内

自然科学研究機構国立天文台では、下記のように、「干渉計サマースクール 2005」と題して、電波干渉計や VLBI の観測原理の講義、データ解析実習、国立天文台野辺山宇宙電波観測所の施設見学を実施します。これから電波干渉計で観測的研究を始めたいという大学院生、若手研究者の多数のご参加を期待します。

より詳しい情報は干渉計サマースクール 2005 のウェブページ <http://vsop.mtk.nao.ac.jp/SS2005/> をご覧下さい。

1. 日時：2005 年 8 月 22 日（月）～25 日（木）
2. 場所・スケジュール（予定）：
国立天文台三鷹キャンパスすばる解析棟大セミナー室（講義）
国立天文台野辺山宇宙電波観測所（実習、施設見学）
 - 8 月 22 日（月）10:00～23 日（火）16:00 三鷹で講義。
 - 8 月 24 日（水）9:00～25 日（木）15:00 野辺山で実習、施設見学。
3. 主催：自然科学研究機構国立天文台
4. 内容：電波干渉計の原理と観測方法についての講義
 - 電波干渉計の理解に必要な数学的基礎
 - 電波干渉計観測の意義と得られた成果
 - 電波干渉計の原理
 - 電波干渉計を構成する要素
 - 観測データの較正と解析
 - 電波干渉計データ解析の要点データ解析の実習
国立天文台野辺山宇宙電波観測所の施設見学
4. 対象：これから電波干渉計を使った観測的研究を始めようという大学院生・若手研究者。ただし、年齢、身分、所属などは問いません。学部生の参加も可能ですが、講義レベルは大学院生（修士 1 年程度）以上の物理学・数学の知識があることを想定しています。
6. 参加費、旅費補助：参加費は無料ですが、食費・宿泊費の実費を負担していただきます。旅費に関して、若干の補助が可能です。ただし、予算枠の関係で必ずしも希望者全員に支給できるとは限りませんので、その旨ご承知おきください。また、申し訳ありませんが学部生の方には旅費を支出できません。自費での参加をお願いします。申請方法などの詳細はウェブページ <http://vsop.mtk.nao.ac.jp/SS2005/> をご覧下さい。
7. 参加の申し込み方法、締め切り：ウェブページからオンラインで、または下記連絡先への電子メール、郵送、Fax のいずれかで申し込み下さい。なるべくオンライン申し込みをお願いします。締め切りは 6 月 17 日（金）必着です。
8. 問い合わせ先：国立天文台 VERA 観測所 廣田朋也 〒181-8588 三鷹市大沢 2-21-1
Fax: 0422-34-3814
e-mail: ss2005@nro.nao.ac.jp

会務案内

【理事会議事録】

日 時：2005年3月28日（月）12:30～14:20
 場 所：明星大学日野キャンパス 23号館 2F会議室 1
 出席者：祖父江、井上、黒田、花岡、杉山、北本、
 関井、蜂巢、和田、百瀬、田、成相、馬場、富田、
 浅田
 欠席者：なし
 他に、東條事務長が出席した。
 議 長：祖父江義明
 署名人：杉山 直、花岡庸一郎

報 告

1. 前回議事録の確認（資料1）
 花岡理事より前回（2005年1月8日）の理事会議事録が報告され、原案通り承認された。
2. 当年会について
 百瀬理事より開催中の年会について、また田理事より27日（日）の公開講演会について報告があった。公開講演会は参加者151名、同日の記者会見は9社参加であった。年会は581件講演が予定されており（口頭335件、ポスター246件）、またジュニアセッションは35件の講演が予定されている。今回は企画セッション2件、特別セッション2件を含めて開催しており、順調である。
3. 教育問題懇談会報告
 祖父江理事長より、昨年7月の評議員会において、初等・中等理科教育に関して危機感を持ち、改善の為の方策の議論をきっかけに発足した教育問題懇談会の最近の活動について報告がされた。1月9日、2月27日にはそれぞれ高等学校における地学・物理教育、小中学校での天文教育に関するシンポジウムを開催しており、また年会では3月28日5時よりの天文教育フォーラムを天文教育普及研究会と共催する。
4. 創立100周年記念WG報告
 杉山理事より現在検討している事業のうち以下について報告があった。
 - 記念切手の発行 正式決定は来年度の郵政公社の委員会でなされるので、そこで認められるよう若松前副理事長を中心に運動中である。3月開催の委員会にも検討の参考として資料を提出済みである。なお、関連分野の記念切手ということでは、国立天文台が先に記念切手発行の要請をするとの

情報もあった。

- 学会100年史編纂 2月17日に尾崎元理事長、実務担当理事などを中心とした予備的な会合を行い、学会として小委員会を設置することを念頭において編纂委員メンバーを内定した。3月30日年会中に委員会を開催予定である。
 - 天文月報100巻記念 月報編集委員会で議論中である。
5. その他
 - (1) 教育委員会関連の報告
 田理事より、講師派遣データベースについて4月から運用開始を予定しておりそれに向けて準備中である、テンネットで宣伝をしたいと考えている、との報告があった。実際に講師として適当な人材が十分に登録されているのか、という議論があった。理事・評議員には積極的に講師としての登録をお願いすることとなった。
 - (2) 天文月報についての報告
 和田理事より、天文月報記事について、印刷会社の持っているpdfファイルは学会で買い取ること、天文月報のウェブ上での公開は新しいものについては出版後1年以内はパスワードをつけて公開、その後は全面公開としたいこと、の報告があった。ただし以前のものはネットワーク上での公開を前提とした著作権上の処理が行われていないため、公開することをテンネットで周知するなどして著作権上問題が起らないようにする。
 - (3) IAU地域会議の天文教育・普及セッションのための募金について
 IAU地域会議の天文教育・普及セッションの嶺重座長より、教育関係者や高校生などが参加できるよう旅費の寄付を月報上で募りたいとの要望が出されている件について、花岡理事より報告された。締め切りの関係で月報にチラシ投げ込みという形になるが、これについては承認した。
 - (4) 100周年記念出版事業について
 祖父江理事長より進捗の報告がされた。3月27日に第4回委員会を行い、最終的な章立てがほぼ固まり、全体構成は16巻から17巻に変更することになった。執筆候補者について議論を行い、4月には執筆の打診をする。
 - (5) 次回以降の年会について
 - 北海道大学がホストとなる2005年秋季年会について、馬場理事より、大学外での開催のため開催費が高くなるので、一部助成を受けることになった旨報告があった。
 - 和歌山大学がホストとなる2006年春季年会に

ついて、富田理事より会場を現在選定中であること、和歌山市等からの助成を受けられるよう運動中であること、の報告があった。

- 九州国際大学がホストとなる2006年秋季年会について、浅田理事より9月19日(火)~21日(木)に開催、18日(月祝)に公開講演会を行うこととして準備中である旨報告があった。

議 題

1. 新入会員の承認(資料2)

花岡理事より資料に基づき新会員の報告があり、入会が承認された。あわせて、退会者の報告があった。なお、移籍について、準会員から正会員への移籍は理事会における承認が必要であるが、正会員から準会員への移籍は承認不要ではないかとの議論があり、今後移籍の承認についてはそのようにする旨申し合わせた。

2. 日本天文学会100年史編纂委員会内規の制定など(資料3)

杉山理事より、天文学会創立100周年記念事業のひとつとして100年史の編纂を行うこととなっているので、このための委員会を学会の小委員会として組織し、そのための内規を制定したい旨の提案があった。内規案については原案通り評議員会に諮ることとした。また、委嘱を予定している編纂委員会委員についても紹介があり、承認された。

これとともに、年会実行委員・天文教育委員であった加藤万里子氏が退会したため両委員会の委員に欠員が生じたことについて報告があった。天文教育委員会については、最近教育関連の会合の頻度が高くなっている一方で田委員長が岐阜県に異動となって頻繁な会議出席が困難になっている事情もあり、東京近辺在住の委員を新たにお願いして欠員の補充するというので、山縣氏を新たに委員とすることが提案され、承認された。年会実行委員会についても必要に応じて補充を今後検討する。

3. 年会実行委員会から(資料4)

百瀬理事より、予稿締切日と企画セッションのルールに関して提案があった。

予稿締切日については、講演数の増加に伴い予稿締め切りから月報用プログラム原稿完成までのスケジュールが極めてきつくなっているため、予稿の質の低下が懸念材料ではあるものの締切日を1~2週間早めたい旨の提案があった。月報にプログラムを載せる必要性が本当にあるのか、月報のプログラムは便利であるばかりでなく公式記録であり必要である、というような議論があったが、十分な議論は今

後引き続き行うこととし、期日の近い今年秋の年会については1週間前倒しの日程を承認した。

企画セッションについては原則1日の枠で収まるものとするを確認し、より細かい見直しについては次回審議することとなった。

4. その他

(1) 天文オリンピックについて(資料5)

杉山理事より、科学オリンピックのひとつとして開催されている天文オリンピックへの参加が検討できないか文部科学省より問い合わせがあり、それを受けて予備検討会を開催した経緯について説明があり、天文オリンピック自体詳細が不明であるので科学技術振興事業団の援助のもとにオブザーバーを派遣して状況を把握すること、検討ワーキンググループを設置すること、が提案された。オブザーバー参加については認めることとし今後人選を行い、検討WGについては次回以降さらに検討する、とした。

(2) 男女共同参画学協会への対応について(資料6)

祖父江理事長より、男女共同参画学協会の担当者を決めたい旨提案があった。最近、男女共同参画学協会が日本学術会議女性会員の選出についての要望書を出すことになり天文学会にも有志として要望書に加わるよう依頼があったが、天文学会として議論をするなど対応をしている間がないため保留とした、ということがあった。日本天文学会は男女共同参画学協会に参加しており、現在祖父江理事長が窓口となっているが、今回の要望書のような動きに対応するのは容易ではないため、新たに他の担当者を決めたいとの趣旨である。理事会席上では決するまではいたらなかったので、今後候補を探して依頼することとなった。

(3) 黒字財政と諸事業についての会計からの報告

関井理事より、前回の理事会で、PASJや天文月報の出版費用が減少してきているため会費値下げを検討していると提案したことについて、改めて検討を行っている会員へ還元する方法や新たな事業のいろいろな案についての説明があった。さらに今後各案について必要に応じて金額まで考慮した提案を行い、検討を続けていく。項目によっては次回7月の理事会で決定すれば来年度予算案に盛り込む。

2005年4月21日

議 長 祖父江義明 ㊟
署名人 杉山 直 ㊟
署名人 花岡庸一郎 ㊟

【評議員会議事録】

日 時：2005年3月29日（火）12:00～13:00
 場 所：明星大学日野キャンパス 23号館 2F会議室 1
 出席者：井上、海部、小山、柴田、須藤、千田、高橋、
 牧島、吉井、安東、家、梅村、大橋、小杉、佐藤、
 観山、山本 以上 17名
 有効委任状提出者：太田、岡村、高原、舞原、池内、
 谷口 以上 6名
 欠席者：福井

他に理事会から、祖父江理事長、黒田副理事長、
 花岡、杉山、北本、関井、百瀬理事、及び東條事務
 長が参加した。

議事に先立ち、議長及び署名人を選出した。

議 長：大橋隆哉

署名人：柴田一成、山本哲也

報 告

1. 前回議事録の確認（資料1）
 花岡理事より前回（2005年1月22日）の評議員
 会議事録が報告され、承認された。
2. 当年会について
 百瀬理事より開催中の年会について報告があっ
 た。年会は講演 581 件（口頭 335 件、ポスター 246
 件）であり、またジュニアセッションは講演 35 件で
 ある。今回は企画セッション 2 件、特別セッション
 2 件を含めて開催しており、順調である。なお、27
 日の公開講演会は参加者 151 名、同日の記者会見は
 9 社参加であった。
3. 教育問題懇談会報告
 祖父江理事長より教育問題懇談会の活動について
 報告があった。昨年7月の評議員会において、初
 等・中等理科教育に関して危機感を持ち、改善の為
 の方策の議論をきっかけに発足した懇談会におい
 て、1月9日、2月27日にはそれぞれ高等学校にお
 ける地学・物理教育、小中学校での天文教育に関す
 るシンポジウムを開催、年会中の3月28日に天文
 教育フォーラムを教育の専門家を招いて天文教育普
 及研究会と共に開催というように、議論を行ってき
 ている。今後一般教育についての、また可能なら大
 学院教育についてのシンポジウムも開催したい。秋
 の中教審答申へ向けて学会からの提言を6～7月に
 まとめたいと考えている。特に学習指導要領への提
 言を行いたい。
 なお、これに加えて祖父江理事長より教育問題懇
 談会と天文教育委員会間の関係について説明があっ

た。教育問題懇談会は、初等中等教育について危惧
 があるという認識から学会として議論の場を設ける
 べきではあるが、教育委員会の負担をこれ以上増や
 すのは難しい、ということから委員会とは別に立ち
 上げたものである。ただし両者の役割について齟齬
 が生じており、今期中にこれを解決したいと考えて
 いる、ということである。これについて、そもそも
 教育委員会の役割は初等中等教育・一般教育への窓
 口となるべきであるところであるが、その役割を果
 たせずにきたのではないか、それ以前に学会として
 の教育問題への取り組みがどうあるべきか、が不明
 確であったのではないのか、積極的に教育問題にか
 かわるべきという意見に対して委員会の方が消極的
 であったのではないか、という議論があった。一方、
 天文学会には必ずしも初等中等教育の専門家が十分
 いるわけではないので委員会として積極的にこの問
 題に取り組むのが行うのが難しい面があり、他の仕
 事も相俟ってなかなか委員会として態勢が整わな
 い、という議論もあった。現在は懇談会が積極的に
 教育問題にかかわる役割を果たしつつあるというこ
 とは認識はされている。評議員会としては、学会は
 初等中等教育・一般教育に積極的に取り組んでいく
 方向であるということをおため確認した。

4. 創立 100 周年記念 WG 報告

杉山理事より現在検討している事業のうち以下に
 ついて報告があった。

- 記念切手の発行 若松前副理事長を中心に、来年
 度の郵政公社の委員会でなされる正式決定で認め
 られるよう運動中である。なお、関連分野の記念
 切手ということでは、国立天文台からも1年早く
 別に記念切手発行の要請をすると情報があつた。
- 学会 100 年史編纂 2月17日に尾崎元理事長、実
 務担当理事などを中心とした予備的な会合を行
 い、学会として小委員会を設置することを念頭に
 おいて編纂委員メンバーを内定した。3月30日年
 会中に委員会を開催予定である。
- 天文月報 100 巻記念 月報編集委員会で議論中
 である。

なお、記念式典については今後の検討となる。

5. PASJ 寄贈先リスト（資料2）

花岡理事より現在の寄贈先リストの紹介がされ
 た。経済情勢が変化しており、購読を求めるべきと
 ころも多いのではないかという指摘があった。一
 方、寄贈をつづける所について電子版にログインす
 る権利も含めて寄贈ということにできないか、とい
 う意見もあった。今後編集部等で見直しを検討する。

6. その他

(1) 天文オリンピック

杉山理事より、科学オリンピックのひとつとして開催されている天文オリンピックへの参加が検討できないか文部科学省より問い合わせがあり、それを受けて文科省の担当者を交えて予備検討会を開催したこと、天文オリンピック自体の詳細が不明であるので状況を把握するためオブザーバー2名を派遣するよう理事会で決したこと、が報告された。

(2) 男女共同参画学協会への対応について

祖父江理事長より、男女共同参画学協会に関する経緯の報告がされた。最近、男女共同参画学協会が日本学術会議女性会員の選出についての要望書を出すことになり天文学会にも有志として要望書に加わるよう依頼があったが、天文学会として議論をするなど対応をしている間がないため保留とした、ということがあった。日本天文学会は男女共同参画学協会に参加しており、現在祖父江理事長が窓口となっているが、今回の要望書のような動きに対応するのは容易ではないため新たに他の担当者を決めることとなり、理事会で検討中である。男女共同参画については委員会を学会として持ってもよいのではないか、学会内では若い年代には女性も多いが、現状を十分把握する調査などを行うことも必要ではないか、という意見があり、これも理事会で検討することとなった。

(3) 科研費実績調査

前回の評議員会で議論のあった科研費の実態調査について、家評議員より、学振と国立情報学研で公開に向けて整備中のデジタルデータを入手することができたとの報告があった。ただし1996年以前の方は未完で不備も多いので、1980年代までのデータを独自に追加入力・照合中であり、秋頃までには天文科研費データベースを完成し、分析結果を報告したい、とのことである。

(4) 100周年記念出版事業

祖父江理事長より報告がされた。3月27日に第4回委員会を行い、最終的な章立てがほぼ固まり、全体構成は16巻から17巻に変更することになった。執筆候補者について議論を行い、4月には執筆の打診をする。2007年末か2008年初めに完成とすると最初の締め切りは10月となる。執筆スケジュールは楽なものではないが、順次滞りなく出版していくことが出版物としても学会の事業としても重要であるとの指摘があった。

(5) 委員会委員の変更

杉山理事より、加藤万里子氏が退会したため氏が委員であった年会実行委員会と天文教育委員会の委員に欠員が生じたことについて報告があった。天文教育委員会については、最近教育関連の会合の頻度が高くなっている一方で田委員長が岐阜県に異動となって頻繁な会議出席が困難になっている事情もあり、東京近辺在住の委員を新たに加えて欠員の補充するというので、山縣氏に新たに委員としたことが報告された。年会実行委員会についても必要に応じて補充を今後検討する。

議 題

1. 日本天文学会 100 年史編纂委員会内規の制定など (資料3)

杉山理事より、天文学会創立100周年記念事業のひとつとして100年史の編纂を行うこととなっているので、小委員会として100年史編纂委員会を組織しそのための内規を制定したいとの提案があった。あわせて委員の候補の説明もあった。内規は提案どおり制定とした。学会の100年史として編集するものは単に学会の歴史ということではなく日本の天文学の歴史も合わせた一般の興味をひくものものではないか、むしろ史料としての価値を重視すべき、というような意見も出された。

2. その他

(1) 会費値下げ等会計からの報告

関井理事より、PASJや天文月報の出版費用が減少してきているため会費値下げを検討していると前回報告した件について、現在会費値下げばかりでなく諸事業も含めて理事会で検討をしつつあると報告があった。

2005年4月20日

議 長 大橋隆哉 ㊟
署名人 柴田一成 ㊟
署名人 山本哲也 ㊟

【2005年春季通常総会議事録】

日時：2005年3月29日（火）15:40～17:00

場所：明星大学日野キャンパス1号館1階

議長：祖父江義明

議事に先立ち出席者の確認がなされた。事前投票総数（うち会場参加者との重複は除く）は352名、会場参加は185名、有効委任状提出者0名である。出席者のうちで事前投票をしたものは、事前投票の方を無効とした。結局、有効出席者総数は537で、定足数（正会員総数1578名の5分の1=316名）を満たしていることを確認した。

次に署名人として面高俊宏氏、嶺重 慎氏が選出された。

続いて各賞の授与式が行われ、以下の方々にそれぞれの賞が授与された。なお、受賞理由などの詳細や欧文研究報告論文賞の受賞者全員の名前などについては、天文月報3月号p.210を参照のこと。

天体発見賞 板垣公一（5件）、串田麗樹（2件）、西村 栄男、高尾 明（2件）、多胡昭彦の各氏（5名、11件）

天体発見功労賞 中村祐二（2件）、板垣公一、櫻井幸夫の各氏（3名、4件）

天体功労賞 長期的な業績として武蔵高等学校中学校太陽観測部（1団体）

研究奨励賞 片岡 淳、河北秀世、福重俊幸の各氏（3名）

林 忠四郎賞 須藤靖氏（1名）

欧文研究報告論文賞 受賞論文名：The Discovery of

Two Lyman Alpha Emitters beyond Redshift 6 in the Subaru Deep Field, 著者：小平桂一氏ほか44名、受賞論文名：Slim-Disk Model for Soft X-Ray Excess and Variability of Narrow-Line Seyfert 1 Galaxies, 著者：嶺重 慎氏ほか3名（2件、49名）

なお、天体発見賞・天体発見功労賞受賞者を代表して板垣公一氏がスピーチを行った。

議事の経過及び結果

1. 2004年度事業報告が杉山庶務理事より報告された（第1号議案）。
2. 2004年度収支決算報告および監査報告が、関井会計理事、家監事より各々報告された（第2号議案）。
3. 祖父江理事長の質疑応答の呼びかけの後、第1号議案、第2号議案は賛成多数で承認された。

報告事項等

1. 日本天文学会100年史編纂委員会の設置など
杉山庶務理事より、標記委員会の設置の報告と委員名簿が報告された。続いて、年会実行委員会、及び天文教育委員会の委員の交代が報告された。
 2. 第9回IAUアジア太平洋地域会議（APRIM 2005）について
嶺重 慎氏より、標記国際会議の開催に関する案内があった。
 3. 世界物理年特別企画 特別セッション「アインシュタインと天文学」について
開催中の年会での標記特別セッションに関して、杉山庶務理事より案内があった。
- 2005年4月21日

議長 祖父江義明 ㊟

署名人 面高 俊宏 ㊟

署名人 嶺重 慎 ㊟

2004年度事業報告補足

2005年3月29日の総会において、古在由秀氏より、民間の賞及び研究助成に関して具体的にどこに推薦を行っているのかという質問がありました。天文学会からの推薦を行っている賞、研究助成には井上學術賞、東レ科学技術賞、日産學術賞（以上賞）、山田研究助成、東レ研究助成（以上研究助成）があります。2004年度については、山田研究助成、東レ研究助成についてそれぞれ1件ずつを推薦しています。2003年度には山田研究助成にのみ1件、2003年度は朝日賞、井上學術賞、東レ研究助成について各々1件の推薦を行っています。

日本天文学会2005年春季年会報告

2005年春季年会は3月28日（月）～3月30日（水）の3日間、明星大学日野キャンパス（東京都日野市）にて口頭会場7、ジュニアセッション等のためのシェイクスピアホール、および大学会館の広大なポスター会場を使って開催された。講演件数は口頭講演が335件、ポスター講演が246件あり、合計で581講演だった。これに加え、ポストデッドライン講演が2件あった。年会参加者は871名、ジュニアセッション・教育フォーラムのみの参加者が204名だった。開催地理事の成相恭二氏、石田宗之氏、鈴木陽子氏の他、明星大学の方々の尽力で順調に行われた。特別セッションは以下の2セッションが開かれた。

「ASTRO-F説明会一観測公募に向けて」世話人：村上 浩・山村一誠・中川貴雄（JAXA宇宙科学本

部)・尾中 敬(東京大学)・芝井 広(名古屋大学)
 「世界物理年特別企画 アインシュタイン 100 年: 相
 対論と天文学 特別講演会」世話人: 杉山 直(国
 立天文台)

また, 企画セッションは以下の 2 セッションが開かれ
 た。

「Solar-B 衛星と新しい太陽プラズマ物理学」世話人:
 桜井 隆(国立天文台)・柴田一成(京都大学)・小
 杉健郎(JAXA 宇宙科学本部)

「世界物理年特別企画 アインシュタイン 100 年: 相
 対論と天文学」世話人: 山田章一(早稲田大学)・
 長瀧重博(京都大学)・高田昌広(東北大学)
 座長は次の 40 名の方々(下表)に務めていただい
 た。会場・時間帯別にお名前を示す(敬称略)。

〈記者会見〉

春季年会の前日, 3 月 27 日(日) 13:30 からシェイ
 クスピアホールにて記者会見を行った。祖父江義明理
 事長より挨拶・各賞受賞者の紹介の後, 以下のトピッ
 クスについての解説が行われた。9 社の報道機関の出
 席があった。

○研究発表

(1) 南半球初の 10 m サブミリ波望遠鏡「ASTE」本
 格観測開始

記者会見出席者:

観山正見, 江澤 元, 坪井昌人, 川辺良平(国立天
 文台), 河野孝太郎(東京大学)

関連する講演番号: V81a-V83a, P04b-P06b, Q05a,
 Q27a, R20b

(2) 超低光度な活動銀河核の数日オーダーでの激し
 い可視変動フレアの発見

記者会見出席者:

戸谷友則(京都大学)

関連する講演番号: S06a

(3) いよいよ完成! 暗黒星雲の全天カタログ: そ
 の概要と使用方法

記者会見出席者:

土橋一仁, 櫻井冬子(東京学芸大学), 上原 隼(桐
 朋高校)

関連する講演番号: Q30a, Q11b

○『世界物理年』に関連するイベントについて

(1) 世界物理年特別セッション「相対論と天文学」
 について

記者会見出席者:

庶務理事・杉山 直(国立天文台)

関連する講演番号: A01a-A14c

(2) 世界物理年の企画に関連したジュニアセッシ
 ョンの発表について

記者会見出席者:

ジュニアセッション実行委員長・吉川 真(ISAS/
 JAXA), 関連発表の指導教員, 生徒の皆さん

関連する講演番号: ジュニアセッションの 19, 20,
 21

〈ジュニアセッション〉

第 7 回のジュニアセッションを, 天文教育普及研究
 会と高校生天体観測ネットワークの共催, 日本惑星協
 会の後援で開催した。口頭発表 30 件(うち 20 件はポ
 スターでも発表)とポスター発表 5 件があり, 合計 35
 件の発表があった。口頭発表数と全発表数はそれぞれ
 過去最多である。発表内容は多岐に渡っており, 内容
 も高度なものが多かった。口頭発表のセッションは,
 3 月 28 日(月)の午前(10:00-12:30) および午後
 (14:30-17:00) に 7 つのセッションに分けて行われ,
 日本通信機株式会社, 日本大学総合学術情報セン
 ター, ライブ! ユニバース, パナソニックデジタル

	3 月 28 日(月)		3 月 29 日(火)		3 月 30 日(水)	
	10:00-12:30	14:30-17:00	9:00-11:00	13:00-15:00	9:00-11:00	13:00-15:00
A	柴田一成 (京都大)	小杉健郎 (ISAS/JAXA)	一本 潔 (NAOJ)	原 弘久 (NAOJ)	山田章一 (早稲田大)	高田昌広 (東北大)
B	渡部潤一 (NAOJ)	徂徠和夫 (北海道大)	阪本成一 (NAOJ)	小宮山 裕 (NAOJ)	大西利和 (名古屋大)	廣田朋也 (NAOJ)
C	田中 壱 (東北大)	松原英雄 (ISAS/JAXA)	寺田幸功 (理研)	田原 譲 (名古屋大)	片岡 淳 (東工大)	宮田恵美 (大阪大)
D	今西昌俊 (NAOJ)	家 正則 (NAOJ)	須佐 元 (立教大)	服部 誠 (東北大)	土居 守 (東京大)	梅村雅之 (筑波大)
E	白崎裕治 (NAOJ)	山岡 均 (九州大)	嶺重 慎 (京都大)	松元亮治 (千葉大)	長瀬文昭 (ISAS/JAXA)	—
F	立松健一 (NAOJ)	富阪幸治 (NAOJ)	観山正見 (NAOJ)	釜谷秀幸 (京都大)	土橋一仁 (東京学芸大)	尾中 敬 (東京大)
G	岩本信之 (原研)	藤本正行 (北海道大)	矢治健太郎 (NAOJ)	大向一行 (NAOJ)	戸谷友則 (京都大)	—

ネットワークサーブ株式会社のご協力により、インターネットで中継された。ポスター発表は、会期を通じて行われた。口頭発表のセッションでは、参加者が310名ほどあり（うち、201名はジュニアセッションのみの参加）、参加者も過去最多であった。今回は、世界物理年特別企画として、アインシュタインや相対性理論についてのセッションを設けた他、大阪教育大学の福江 純氏に相対論についての特別講演を行っていた。なお、口頭セッションの司会は、宮下 敦氏、縣 秀彦氏、西谷徹氏、高橋典嗣氏、五島正光氏、西浦慎悟氏にお願いした。また、会場となったシェイクスピアホールに関係者をはじめとして開催地のスタッフの方々に多大なご協力をいただいた。ここに協力していただいたすべての方々に感謝の意を表したい。

(吉川 真)

〈天文教育フォーラム〉

3月28日(月)17:00~18:30に、天文学コミュニティが理科及び科学教育に対してどのようなスタンスで臨むべきかを考えることを目的として、「理科教育・科学教育の現状と天文教育への期待」というテーマで実施した(共催:天文教育普及研究会)。参加者は約200名であった。まず、専門的立場にある3名の方々(猿田祐嗣氏:国立教育政策研究所,渡辺政隆氏:文部科学省科学技術政策研究所,市川伸一氏:東京大学大学院教育学研究科)から、国際比較に基づいた日本のおかれている理科及び科学教育の現状と課題についての講演があった。総合討論では、参加者を交えながら、理科教育・科学教育の展望や教育課程のあり方について活発な議論が行われた。(高橋 淳)

〈公開講演会〉

講演会のタイトルは、「宇宙の恵み・太陽の恵み」で、3月27日(日)14:00よりシェイクスピアホールで開催された。祖父江義明理事長の挨拶の後に、まず平山 淳氏(明星大学教授,国立天文台名誉教授)の講演「太陽—この神秘的なもの—」が行われた。「太陽はまだ謎だらけ」をベースに、内部を知るための観測例としてカミオカンデによるニュートリノ、スペクトル、太陽黒点の紹介が続き、観測手法についても、気球や観測ロケット、科学衛星のひのとり、ようこうの話も丁寧に行われた。またSolar-Bの計画についても、期待される研究結果について詳細に述べられた。圧巻だったのは、太陽表面の粒状斑と彩層の観測結果のムービーで、あまりの鮮明さに観衆だけではなく、同会場にいた天文研究者にも驚きをもたらした。休憩後には、佐藤勝彦氏(東京大学大学院教授)の講演「宇宙の誕生、宇宙の未来—我々はどこから来てどこへ行くのか—」のタイトルで講演が行われた。この講演は、

天文学会の世界物理年記念イベントの一つとして位置づけられており、アイランドの伝説に見られる世界の始まりに関する神話の紹介の後、アインシュタインの一般相対性理論により宇宙論の研究が可能になったことをスタートポイントにして、宇宙の階層構造やハッブルの宇宙膨張の観測の話、ビッグバンモデルからインフレーションモデル、ブレーン宇宙、ひいては最近話題のダークエネルギーの話まで、わかりやすく伝えるには難しく思われるテーマを図や観測例を用いて、聴衆に直感的に理解しやすく講演が行われた。それぞれの講演の後には活発な質問が出、参考文献を尋ねる質問者もいた。両講師の方々の経験を感じさせる模範的な一般向けの講演内容であり、時間を感じさせない熱気にあふれた公開講演会であった。今回は事前に広報が行き届いた成果もあって、入場者数は151名であった。(田 光江)

〈通常総会〉

「通常総会報告」(429頁)を参照。

〈受賞者記念講演〉

林 忠四郎賞受賞者の須藤 靖氏(東京大学)による講演「銀河および銀河団を用いた観測的宇宙論の研究」が行われた。引き続き、研究奨励賞受賞記念講演として、受賞者3名(東工大・片岡 淳氏,ぐんま天文台・河北秀世氏,東京大・福重俊幸氏)より、それぞれ受賞対象についての講演があった。両賞受賞者の記念講演を一時に実施するのは初の試みであったが、定員約400名の大講義室で立ち見が出るなど、たいへん盛況で熱気にあふれたものであった。

〈懇親会〉

3月29日(火)18:30~20:15に、明星大学キャンパスの学生会館食堂において開催された。参加者は296名であった。理事長の祖父江義明氏による挨拶、明星大学を代表して日江井栄二郎氏による歓迎の挨拶などの後、成相恭二氏の音頭による乾杯で始まった。懇親会中に次回開催地を代表して北海道大学の馬場直志氏による挨拶があった。

〈保育室〉

保育室はポスター会場近くの教室を使用した。3家族、子供5人の利用があった。保育者の派遣は(株)ファミリーサポートに依頼し、年会実行委員会側は田村隆幸氏が担当をした。準備にあたっては鈴木陽子氏をはじめ、明星大学の方々にご協力いただいたことを感謝する。

〈特別セッション報告〉

「ASTRO-F説明会—観測公募に向けて」

年会初日の3月28日(月)18:30よりE会場に於いて開催された。開始直後に約80名、最終的には100

名以上の延べ出席者があり、ASTRO-F プロジェクトへの関心の高さを伺わせた。セッションでは、ASTRO-F プロジェクトマネージャの村上 浩 (ISAS/JAXA) よりミッション概要、山村一誠 (ISAS/JAXA) より観測装置の概要とユーザーサポート体制、尾中敬 (東京大学) より観測プロポーザルについてそれぞれ説明を行い、9月に行われる一般公募枠への観測提案を呼びかけた。セッションは予定通り 19:30 に無事終了した。(山村一誠)

「世界物理年特別企画 アインシュタイン 100 年：相対論と天文学 特別講演会」

2005 年世界物理年特別企画として、春季年会の最後のセッションとして、3月30日(水) 15:00-17:00 に、標記特別講演会を開催した。直前で一部講師の変更という主催者側の不手際もあったが、300名以上の参加者を得て、大変盛会であった。祖父江理事長の挨拶の後、3つの30分講演が行われた。講演者と講演タイトルはそれぞれ、杉山 直 (国立天文台)「アインシュタイン人生最大の失敗」、藤本真克 (国立天文台)「重力波を捕らえる」、松田卓也 (神戸大学)「『二台のロケットのパラドクス』のパラドクス」であった。司会は土居 守 (東京大学) が担当した (以上敬称略)。(杉山 直)

〈企画セッション報告〉

「Solar-B 衛星と新しい太陽プラズマ物理学」

3月28日(月)午前、午後と表記企画セッションを開催した(世話人: 桜井 隆 (国立天文台)・柴田一成 (京都大学)・小杉健郎 (JAXA 宇宙研))。セッションは、SolarB 機器開発チームによる、ミッション概要(常田)、可視光望遠鏡(SOT: 一本)、X線望遠鏡(XRT: 坂尾)、極紫外撮像分光装置(EIS: 原)のレビューに始まり、次に、SolarB 科学に関連の深い近隣諸分野のリーダー達による各分野のレビュー(X線天文: 牧島、地球磁気圏: 星野、室内プラズマ実験: 小野、理論シミュレーション: 鶴飼)がなされ、Solar B への期待が述べられた。引き続いて、Solar B 衛星のデータを用いてどのような科学を推進するか、どんな観測をすべきか(したいか)について、一般講演発表がなされた。世話人の予想を超える申し込み数があり(口頭発表15件、ポスター発表5件)、セッションは盛況のうちに終了した。なお、セッションの電子的プロシーディングとして講演発表に使われた ppt ファイルが以下で公開されている:

<http://solar.nro.nao.ac.jp/solar-b/meeting/ASJ2005-sb/index.html>

(柴田一成)

「世界物理年特別企画 アインシュタイン 100 年：相対論と天文学」

世界物理年を記念した本企画セッションは、3月30日(水) 9:00 より、午前2時間午後2時間のあわせて4時間、約200人の聴衆を集めて行われた。相対論と関係深い分野として、高エネルギー天体、高エネルギー宇宙線、重力崩壊、宇宙論の4つに焦点を当て、それぞれ30分の基調講演を軸に、研究の現状と今後の方向性を議論した。短い時間ながらも、各招待講演者による個性的な基調講演と、工夫の凝らされた一般講演により、とりあげた広範なテーマの重要性や将来性が幅広い聴衆に理解されたものと思う。

(山田章一)

(年会実行委員長: 百瀬宗武)

第16期日本天文学会評議員候補者選挙に関する公示

日本天文学会評議員候補者選挙を下記のとおり実施致します。

選挙管理委員会は、2005年の秋季総会に推薦される改選評議員(任期2006年~2009年)候補者の選挙について、定款第25条及び評議員選挙施行細則(以下「細則」という)に基づき以下のとおり実施します。

1. 選挙権及び被選挙権を有する者は、この公示の時点における正会員である。但し、非改選評議員(任期2004年~2007年)は被選挙権を有しない(細則3条)。
2. 上記有権者には、2005年6月24日(金)までに有権者名簿及び投票用紙を発送する(細則4条)。
3. 投票は、7名以内の無記名連記とする(細則5条)。
4. 投票期間は2005年6月27日(月)から7月20日(水)(必着)とする。
5. 選出された候補者10名の名簿は、2005年8月20日発行の天文月報9月号に発表する(細則7条)。

2005年5月20日

選挙管理委員会委員長 富阪幸治

(社)日本天文学会へ2005年1月8日から3月28日までの間に入会された方、退会された方をお知らせします。

正会員入会者 (12名)

太田一陽	東京大・大学院理 (在学)/国立天文台	黒田大介	総研大 (在学)
金井義和	東京工業大 (在学)	富田昭博	熊本大 (在学)
伊王野大介	Harvard Smithsonian Center for Astrophysics	田中雅臣	東京大・理 (在学)
合川正幸	Universite Libre de Bruxelles	池田優二	(株)ジェネシア
縫田明理	東京大・理 (在学)	宮川雄大	青山学院大・理工 (在学)
三宅晶子	茨城大・大学院理 (在学)	甘日出文洋	東京大・理 (在学)

準会員入会者 (7名)

山下 敏	埼玉県立深谷第一高校	杉山裕治	(株)小学館
西澤 淳	名古屋大・大学院理 (在学)	仲田義章	(株)日立製作所
中村正人	日本大・理工	有賀理香	千葉大 (在学)
中嶋清美	千葉県船橋市在住		

移籍会員

[正→準] (3名) 荻原哲夫 横山紘一 筒井芳典

正会員退会者 (24名)

岩本静男, 菊岡秀多, 加藤万里子, 加藤貴昭, 森久保 茂, 坂井純一, 栗田光樹夫, 佐藤陽一郎, 山本文雄, 祖谷元, 馬場大介, 麻田佳明, 廣本宣久, 北爪智啓, 矢地晴一, 浅田圭一, 島 尚徳, 飯野将史, 佐藤彰子, 磯崎洋祐, 田村 一, 猪狩友希, 米沢郁人, 持田 智

準会員退会者 (17名)

梅原広明, 北野和宏, 野村常雄, 四元克志, 橋本勝美, 高木いずみ, 木原邦夫, 河嶋健吾, 植田龍男, 小池直樹, 桜井邦朋, 佐藤精一, 小島 誠, 高松 博, 渡辺輝彦, 飯野孝浩

和田桂一(編集長), 今西昌俊, 亀野誠二, 齋藤正雄, 寺田幸功, 濤崎智佳, 戸谷友則, 洞口俊博, 増田 智, 矢野太平
 平成17年5月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
 定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2005年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)